

大 学 名	神戸市外国語大学	担 当 教 員 氏 名	木場 紗綾 准教授
開 講 期 間	前期 (4/9 ~ 8/5)	開 講 曜 日 ・ 時 間	木曜 3 限 (12:45 ~ 14:15)
履 修 条 件		募 集 人 員	若干名
教 室	未定	連 絡 先	Tel: 078-794-8133 Email: kyomu@office.kobe-cufs.ac.jp (教務入試班)
授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標			
授 業 概 要	<p>比較政治学(Comparative Politics)は、世界各国の国内政治を分析対象とし、「なぜ」という疑問をもとに、原因を推論する学問である。</p> <p>前期のテーマは「民主化の進展と停滞」である。開発途上国の貧困は、経済構造だけではなく、政治体制や、民主的なルールが守られない政治文化にも深く起因する。いまだに多くの国では、社会に汚職や不正が蔓延し、権力者による利権の独占、ネポティズム(身内びいき)が常態化し、公共の財やサービスが公平かつ効率的に国民に分配されず、開発協力援助のプロジェクトがゆがめられたり、非効率であったりといった「ガバナンス」の問題が共通してみられる。それはなぜなのか。あるいは、選挙制度はあるものの、一部の指導者が長年にわたって強権的な統治を続ける国が存在するのはなぜか。市民はどのような時に、異議申し立てを行うのだろうか。</p> <p>本科目では発展途上国に焦点を当て、民主主義とガバナンスをめぐる主要な理論や論争を整理する。そして、民主化が進まなかったり民主主義が定着しなかったりする国々が「なぜ、そうなのか」を、歴史と制度の両面から考察する。</p>		
授 業 時 間 学 習 以 外 の 学 習 (準 備 学 習 含 む)	レポートには早め着手し、まず、問いを定めること。文献や資料に、精力的に目を通すこと。アカデミック・ライティングのマナーを身に着けることは前提とする。		
授 業 計 画	1	イントロダクション：比較政治とは何か	
	2	開発途上国の政治：汚職を研究する	
	3	なぜ貧しい国はなくなるのか① 社会的実験の紹介	
	4	なぜ貧しい国はなくなるのか② 社会的実験の紹介	
	5	選挙不正と制度外行動	
	6	クーデター①	
	7	クーデター②	
	8	民主主義と権威主義	
	9	ガバナンス	
	10	国際協力政策の変遷とガバナンス支援	
	11	外圧としての民主化と「グッド・ガバナンス」	
	12	ネポティズムと官僚制	
	13	レポート執筆に向けて①	
	14	レポート執筆に向けて②	
	15	総括	
評 価 方 法	<p>期末レポートで 100%評価する。出欠は確認しないが、期末レポートは「比較政治」の考え方を理解しているかを確認するものであるから、授業を聴いて理解していない学生には上記レポートの執筆は困難であると思われる。レポート論題や字数、締め切り、評価基準などは、第1回の授業時に提示するが、おおむね次のようなものを想定している。</p> <p>①授業内容を踏まえたうえで、以下から1つ以上の概念を選び、②先行研究を引用しつつその概念を定義し、③操作化された客観的な測定指標を1つ以上提示し、④そのテーマについて一見不可思議な「パズル」である「なぜ」または「どの条件が」(why または what makes…))で始まる問いを立て、⑤その「問い」に答えようと試みている先行研究(アカデミックな書籍や論文、信頼に足る専門家の論考、シンクタンクの論説記事、大手新聞社の論稿など)を2点以上引用して論述せよ。</p>		

	<p>なお、2 つ以上の国や地域を選択する必要はなく、1 つの国や地域について論じて構わない。本科目の重点は「比較する」ことではなく「原因を推論する」ことにある。</p> <p>【概念の選択肢】</p> <p>汚職、汚職撲滅、ネポティズム、民主化、民主主義の定着、民主主義の後退、権威主義の教科、ガバナンス改革、ガバナンス支援</p> <p>図表や参考文献リスト、脚注を含まず 3,000-5,000 字程度。執筆者自身の主張は不要。アカデミック・ライティングのルールを踏まえ、レポートを提出したからといって単位が取得できるわけではない。なお、6 月から 7 月にかけて複数回、授業内および補講によって実施する「中間報告会」に必ず参加し、「レポートの問い (③) と先行研究 (⑤) について 1-2 分で担当教員に対して個別に報告を行い、フィードバックと「提出許可」を得ること。中間報告会の日程は後日 GAIDAIPASS で周知する。また、対面およびオンラインの併用で実施する。時間内に指導できなかった場合はメールなどによる後日のフィードバックを行うが、事前の連絡なく授業に参加しなかった学生からのメールのみによる相談は受け付けない。正当な理由なく提出許可を得ないまま提出されたレポートは採点しない。</p>
<p>教 科 書</p>	
<p>参 考 図 書</p>	
<p>特 記 事 項</p>	<p>使用するソフトウェア：</p> <p>授業資料：パワーポイントおよび PDF</p> <p>レポート執筆：Word および PDF</p> <p>授業資料共有：Dropbox</p> <p>オンライン配信：Zoom</p> <p>講義では、日本の政治・社会にも言及するし、途上国に対する国際協力、開発援助、人道支援、安全保障といった国際政治のテーマにも言及する。とりわけ、国際協力論（援助論）の先行研究や実践について多く言及するので、そうしたテーマに関心を持つ学生の参加を歓迎する。政治学に関する基礎知識の有無は問わないので、ぜひ、幅広い層の学生に受講してもらいたい。</p>